

編 集 後 記

息子が犬を飼ってほしいといいだした。娘が小さい時からぜん息だったため、犬、猫はお医者様から禁止されていたのだが、成長して体調も良くなってくると、家の外で飼うのなら良いのでは、と思うようになった。考えてみたら、私の父が動物好きで、私自身、たくさんの犬や猫、雉子やにわとり、あひるや小鳥の類に囲まれて育ってきた。それなのに我家の子ども達には何もいないのも可哀そうだ。

そんな時、近所のお宅から柴犬の仔犬をもらってくれる人を探している、という話があった。子ども達は大喜びで、すっかり飼う気になってしまった。所が、意外にも父親が反対。子ども達が何とお願ひしてもイエスといってくれない。

「おとなしいメスだし、トイレのしつけもきちんとできているし、吠えないし、外でも飼えるヨ。それにまだ仔犬だから可愛い。ねえ、ほしィヨ。お父さんには面倒かけないから。」それでも答はノー。

夜になり、仔犬の飼い主から電話があり、あちらの家でも家族の反対があり、悪いけれど仔犬は手離せなくなつたということだった。仔犬が来なくなつたのは残念だったが、まだ家族全員でむかえる気持ちになつていないので、内心ホツとした。

またチャンスはあるから、と子ども達の気持ちをなだめてはみたか、次のチャンスまでに、お父さんの説得の方が大変そうだ。

(K)

幼児の教育

第九十三巻 第二号

(一九九四年二月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成六年二月一日

編集兼発行人 本田 和子

発行所 日本幼稚園協会

〒112 東京都文京区大塚二―一―

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108 東京都港区三田五―一二―

発売所 フレーベル館

〒113 東京都文京区本駒込

六一―四一九

☎〇三―五三九五―六六〇四

振替口座 東京九―一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いいたします。